



看護師
木崎 いづみ

NICUの母乳育児支援について

新春の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

新生児センター(NICU・GCU)では、37週より早く産まれた赤ちゃん(早産児)や2500gより小さく生まれた赤ちゃん(低出生体重児)、治療を必要とする赤ちゃんをお預かりしています。母乳やミルクの栄養は、赤ちゃんの状態に合わせて開始されるため、直接授乳ができるようになるまでに時間がかかることがあります。また、赤ちゃんとお母さまはしばらく離れることになるため、赤ちゃんの授乳や母乳について知りたいとお声を多くいただきます。

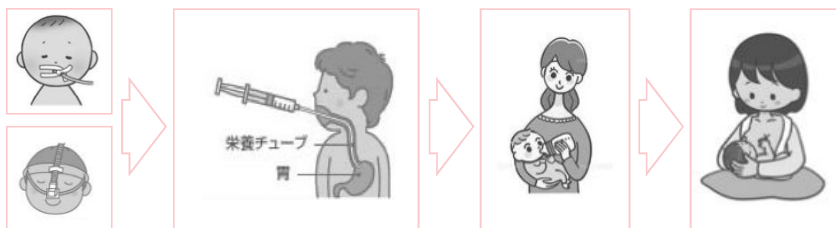
今回は、NICUでの母乳育児支援についてご紹介したいと思います。

NICUに入院する赤ちゃん

NICU(新生児集中治療室)には、在胎週数36週未満、出生体重1900g未満、治療が必要な赤ちゃんが入院となります。NICUの赤ちゃんは、「体温を調整する働き」や「肺の働き」、「胃腸の働き」などからだの機能が未熟なため、保育器に入り人工呼吸器や点滴、モニターなどの医療機器がついています。しばらくは直接おっぱいを吸うことはできませんので、胃まで届く細いチューブを通して直接胃に母乳やミルクを届けます。

お口から飲むことができるのは、修正週数35週以降で赤ちゃんの状態に合わせて練習を始めます。

赤ちゃんが新生児センター入院中の授乳の流れ



呼吸器が付いていますが、早ければ翌日~数日後より栄養が始まります。まだ、お口から直接飲むことができない場合は、栄養チューブを通して胃の中に届けます。

呼吸器が外れて、状態を見ながら、お口から飲む練習が始まります。

ママのおっぱいがしっかり飲めるように練習をします。

看護師からお母さまに母乳育児のご希望をお尋ねし、どのようなお手伝いができるかをお伝えさせていただいています。また、諸事情により母乳をあげることができないお母さまにも看護師がお話をうかがい、退院後の育児に向けたお手伝いをさせていただいています。

初乳について

- * 初乳(赤ちゃんが生まれてから3~5日目くらいまでの母乳)には、様々な免疫物質がたくさん含まれています。そのため、初乳が赤ちゃんの気管から消化管に広がると、細菌やウイルスから赤ちゃんを守ってくれます。
- * 早産の赤ちゃんを出産したお母さまの母乳は、タンパク質・ミネラルなどが豊富に含まれ脂肪分も多く(カロリーが高い)、早産児にもっとも重要な脳と肺に大切な成分を含んでいます。
- * 母乳は、消化・吸収に優れ、便秘になりにくい最も理想的な栄養です。免疫の面からとても重要な栄養となります。
- * 搾った母乳は冷凍保存し、新生児センターに届けていただいています。

母乳塗布について

* 母乳を染み込ませた綿棒をお母さまから赤ちゃんの口に含ませてあげていただきます。

早産の赤ちゃんを出産されたお母さま(主に34週未満)へ「母乳塗布」のご案内をしています。母乳塗布は①お母さまと赤ちゃんのスキンシップのため、②赤ちゃんが母乳の匂いや味を体感する機会をすることで、直接ママのおっぱいを吸うための準備をしている、③母乳の匂いを嗅いだり舐めたりすることで、赤ちゃんのストレスを軽減したりリラックスできる効果があります。

搾乳について

- * どんなに小さく生まれた赤ちゃんも、必ずママのおっぱいを飲む日がやってきます。それまでできるだけ分泌が保てるよう、産後早くから搾乳をお願いしています。産後は、乳頭への刺激で母乳を作るホルモン(プロラクチン)が増えてきます。2~3時間ごとに搾乳することで、吸吮刺激(赤ちゃんが吸う時の刺激)の代わりに、母乳分泌量が維持できるといわれています。
- * 赤ちゃんの泣き声を聞いたり匂いを嗅ぐと、オキシトシンというホルモンの働きで母乳分泌が促されます。NICUには、貸出し用の電動搾乳機と搾乳ができるスペースを確保しています。赤ちゃんにご面会の際にご利用いただいています。
- * 看護師が母乳分泌に関してのお母さまのお悩みを伺ったり、母乳外来や助産院のご紹介もしています。
- * 個人差もありますが、産後すぐは母乳の出が少なかったり、赤ちゃんと離れている期間や直接授乳のできるまでの期間が長くなると、母乳分泌の維持が難しいこともあります。母乳が出ないことをストレスに感じ過ぎないように、いつでもスタッフにご相談ください。

赤ちゃんが新生児センターへ入院となる場合、戸惑いや不安も大きいと思います。小さなことでも新生児センタースタッフへお声掛けください。少しでも赤ちゃんとお母さまの関わりのお手伝いできればと思っています。